

ヨハネによる福音書5章1～18節

●約10日間の休暇をいただき、米国を訪れました。たった一年半の間にも、治安の悪化、ホームレスの増加という大きな問題があることを肌で感じました。しかし、同時に最もこの世の繁栄を見せているシリコンバレーにあって、今も変わらずイエス・キリストにこそ希望があると信じ教会に集まる人々がおられることに深い希望を感じました。

●神による「救い」とは、この世に、また私たちの人生に苦しみや病気がなくなり、この世の富がいつも溢れるほど与えられることではありません。むしろ、苦しみや貧しさを覚える中にあっても、イエス様が共におられるということを感じ、自らの重荷を背負って立ち上がり、喜びと希望を持って生きることです。今日与えられた聖書にはそのような「救い」に預かった一人の人間の姿が描かれています。

●エルサレムの片隅「ベトザタの池」には病人や障がいを持った人々が集まっていました。その池には人を癒す力があると信じられていたからです。イエス様は長年そこに横たわっているある病人を見て「良くなりたか」と尋ねられました。この「良くなりたか」は原文では「完全になりたか」という言葉です。つまり、ただ体が癒されたいかというのではなく、「救われたか」と尋ねられたのです。それに対して、この病人は恨み節のような言葉をのべ、少し的外れな答えをします。しかし、イエスを「主、私の救い主」と呼んだその病人をイエス様は立ち上がらせ、床を担ぎ、歩かせました。そして、力強くイエスこそが自分を救ったことをユダヤ人たちに証する者とされたのです。

●ニューヨーク大学のリハビリテーション病院の壁に次のような詩が記されています。「大事を成そうとして、力を与えてほしいと神に求めたのに、慎み深く、従順であるようにと弱さを授かった。幸せになろうとして富を求めたのに、賢明であるようにと貧困を授かった…。求めたものは一つとして与えられなかったが、願いはすべて聞き届けられた。神の意にそわぬ者であるにもかかわらず、心の中の言い表せない祈りはすべてかなえられた。私はあらゆる人の中で最も豊かに祝福されたのだ。」

この詩人は、病気や貧しさ、困難が与えられているその只中で、私の祈りを聞いてくださる救い主イエス様と出会い、神からの救いと祝福に預かったのでしょう。私たちも常に的外れな求めをしているような「神の意にそわぬ者」かもしれませんが、そんな私たちを群衆の中で探し、私たちの心の奥底にある「救いへの願い」を叶えてくださる主イエス・キリストを信じ、共に歩んできたいと思います。